

理科授業改善実践事例集の発刊にあたって

日立市教育研究会理科教育研究部長 松本幸次

日立市理科教育研究部 研究目標

自然に関わる体験活動を重視した学習を通して、問題解決能力を育てる
楽しい理科学習の在り方
～ 目標を明確にした指導の充実と評価を生かした指導改善～

変革の時代です。教育改革の流れの渦に飲み込まれないように、教育のあるべき姿をしっかりと見据えながら力を合わせて、未来に生きる子ども達の健全な成長を願い、毎日の研修に励みたいと考えます。

新しい学習指導要領が小学校は平成23年度、中学校は平成24年度から全面実施となります。来たる平成21年度は移行措置の期間として、一部先行して実施していく内容の中の柱の一つに理科教育があります。

移行期間のポイントについて確認しておきます。

小学校の目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験を行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

指導のポイント

3年生～自然現象を差異点や共通点などの視点で、比較しながら調べる。

4年生～自然現象の変化に着目し、変化とそれにかかわる要因を関係づけながら調べる。

5年生～自然現象にかかわる条件に着目したり、量的変化や時間的変化に着目して調べる。

6年生～自然現象の変化や働きをその要因や規則性、関係を推論しながら調べる。

中学校の目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物、現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

指導のポイント

科学に対する基本的な概念の一層の定着を図り、科学的な見方や考え方、総合的な見方を育成する。

科学的な思考力・表現力を育成する。

科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高める。

科学的な体験、自然体験の充実を図る。

以上のような観点から、我々は今から対応していかなければなりません。例えば、新しい学習内容に対応するために、観察・実験の把握や研修、さらに必要な機器の計画的整備が必要となります。そのためにも、理科部員の相互の研修が是非必要となります。

本事例集は先生方の日頃の実践内容の一部を掲載したものです。今後の理科指導の改善や研修に活用され、理科研究部の組織としての体制を整え、今後の変革の時代に自信を持って対応していく力を養っていく事例集となることを期待しております。

理科教育研究部の活動に対し、日立市教育委員会指導主事 濱崎 裕幸先生を始め指導課の先生方には、大変ご丁寧なご指導をいただき心から感謝申し上げます。

また、大変お忙しい中、原稿を寄せて頂きました先生方のご協力に、心よりお礼申し上げます。